Doshisha Clinical Psychology: Therapy and Research
2014, Vol. 4, No. 1, Pp. 69-80

2013年度心理臨床センター活動報告

1．開室状況

開室日数は270日（月平均22.5日），勤務のべ人数は964人（月平均80.3人）だった。

2．電話対応状況

電話対応の内訳はTable 1のとおりだった。

Table 1　電話対応の内訳

月	新規申込	継続予約	中止・変更	紹介	その他	合計
4月	8	4	3	2	8	25
5月	3	1	5	1	4	14
6月	4	5	5	1	10	25
7月	7	4	4	0	9	24
8月	3	1	2	0	4	10
9月	4	4	5	0	13	26
10月	3	6	5	0	12	26
11月	7	1	11	0	12	31
12月	8	4	10	0	9	31
1月	9	4	14	0	10	37
2月	4	7	9	0	6	26
3月	2	7	10	0	12	31
合計	62	48	83	4	109	306
月平均	5.2	4.0	6.9	0.3	9.1	25.5

3．相談件数

年間の相談受理件数は116件だった。年間のべ718件の相談（月平均59.8件）を受理した。各月における面接形態の内訳はTable 2のとおりだった。なお，2013年度に実施した心理検査はTable 3のとおりであった。

Table 2　相談の内訳

月	初回面接	心理相談	並行面接	心理査定	その他	合計
4月	6	52	0	4	0	62
5月	5	49	0	1	1	56
6月	4	44	0	1	0	49
7月	8	57	0	2	1	68
8月	3	44	0	4	0	51
9月	3	37	0	2	0	42
10月	6	50	0	0	0	56
11月	0	38	0	1	0	39
12月	14	48	0	0	0	62
1月	6	51	0	28	0	85
2月	10	57	0	23	0	90
3月	3	54	0	1	0	58
合計	68	581	0	67	2	718
月平均	5.7	48.4	0.0	5.6	0.2	59.8

Table３　2013年度に実施した心理検査

	検査名	実施数
AAQ-II:	Acceptance and Action Questionnaire-II	144
AAQ-W:	Acceptance and Action Questionnaire for Weight-Related	17
ADIS:	Anxiety Disorders Interview Schedule for DSM-IV	16
BDI-II:	The Beck Depression Inventory-II	158
BES:	Binge Eating Scale	92
CDI:	Children's Depression Inventory	16
CES-D:	The Center for Epidemiologic Studies Depression Scale	5
CFQ:	Cognitive Fusion Questionnaire	13
CISS:	Coping Inventory for Stressful Situations	1
CONNERS3		1
DEBQ:	Dutch Eating Behaviour Questionnaire	17
DSRS:	Depression Self-Rating Scale for Children	17
EDI-91:	Eating Disorder Inventry	46
FFMQ:	The Five Facet Mindfulness Questionnaire	12
FIT:	Family Image Test	1
GHQ30:	The General Health Questionnaire	108
HADS:	Hospital Anxiety and Depression Scale	2
IES-R:	Impact of Event Scale - Revised	10
LSAS:	Liebowitz Social Anxiety Scale 日本語版	25
M.I.N.I:	Mini-International Neuropsychiatric Interview	15
PARS:	Pervasive Developmental Disorders Autism Society Japan Rating Scale	3
PAS-J:	Panic and Agoraphobia Scale 日本語版	8
PCS:	日本語版 Pain Catastrophizing Scale	2
PDAS:	Pain Disability Assessment Scale	1
P-F スタディ	絵画欲求不満テスト	1
PVQII:	Personal Values Questionnaire II	2
QOL26:	WHO Quolity of Life 26	16
RDQ:	Roland-Morris Questionnaire	1
Rorschach Test		50
SADS:	Social Anxiety Disorder Scale	21
SCAS:	Spence Children's Anxiety Scale	17
SCAS-P:	Parent version of the Spence Children's Anxiety Scale	17
SCID:	Structured Clinical Interview for DSM-IV-TR AXIS I Disorders	10
SCT:	文章完成法テスト	1
SF-36v2:	MOS 36-Item Short-Form Health Survey	17
STAI:	State-Trait Anxiety Inventory	112
TSFS:	Thought-Shape Fusion Scale	17
WAIS-III	Wechsler Adult Intelligence Scale-III	3
WISC-IV:	Wechsler Intelligence Scale for Children-IV	6
Y-BOCS:	The Yale-Brown Obsessive Compulsive Scale	1
慈愛尺度:	The Japanese version of the Self-Compassion Scale	77
全検査合計		1099

4．相談者内訳

相談者の内訳はFigure１～３のとおりだった。

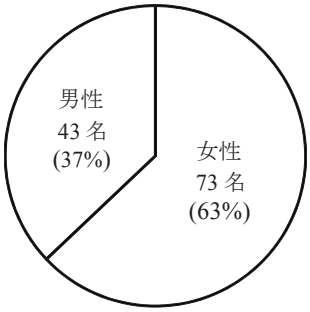

Figure１　相談者の男女比

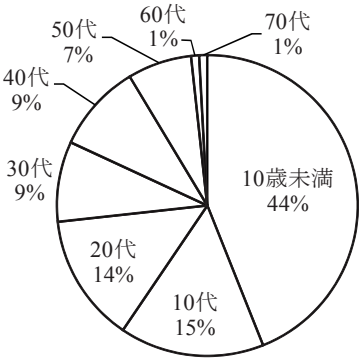

Figure２　相談者の年齢層

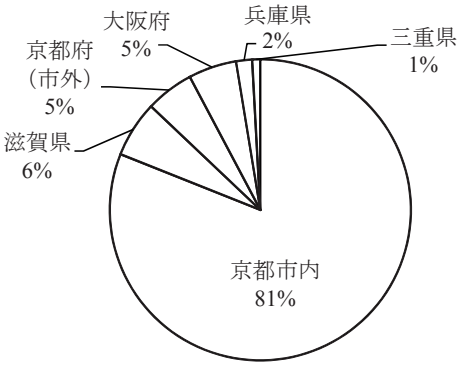

Figure３　相談者の居住地域

5．主訴内訳

主訴の内訳はTable４のとおりだった。

Table４　主訴の内訳（件数）

子どもの発達・不安	65
うつ・不安	16
摂食障害	15
対人関係	5
強迫性障害	3
家族関係	3
その他	9
合計	116

6．来所経緯

相談者が本学心理臨床センターを知った経緯はTable５のとおりだった。

Table５　来所経緯

学校より紹介	53
新聞広告	11
病院より紹介	8
ホームページ	14
知人より紹介	5
パンフレット	3
その他	26
合計	120

（複数回答）

7．特別プログラム実施状況

2013年度には４つの特別プログラムが実施され（Table６），相談研修員が臨床と研究を学ぶ機会となった。

Table６　2013年度実施特別プログラム

プログラム	面接数[注1)]
子どもの不安改善プログラム：いっちゃが教室	123
むちゃ食い改善プログラム	90
脱ダイエットプログラム	19
不眠改善プログラム	13
うつで休職を繰り返してしまう人のための復職支援プログラム	13
腰痛に対するACTプログラム：腰とも	4

注１）面接数は初回，継続，査定の合計を指す

８．実習実績

博士課程前期課程11名の相談研修員が在籍し，本学心理臨床センター内における臨床実習の総時間は588.5時間，一人あたりの平均実習時間は53.5時間だった（スーパーバイズに必要な時間を含まない）。実習形態はTable７のとおりだった。

Table７　実習形態の内訳

面接担当[注1)]	78.0
面接陪席[注2)]	363.0
プレイ	9.0
検査	10.0
受付	122.5
その他	6.0
合計	588.5

注１）ケースの主担当を指す
注２）面接室での同席あるいはカメラシステムを介した観察を指す

９．広報活動

連携の医療機関・学校へ専門相談案内送付（「マインドフルネス・脱ダイエットプログラム」「家族療法」「グリーフワーク」）（４月）
大学院入学試験日程・心理臨床センター紹介掲載（週刊朝日，５月28日）
児童の不安改善プログラム：「いっちゃが教室」広告掲載（広報「京たなべ」，７月15日）
専門相談（「マインドフルネス・脱ダイエットプログラム」「家族療法」「グリーフワーク」）広告掲載（京都リビング，８月31日）
児童の不安改善プログラム「いっちゃが教室」広告掲載（京都リビング，11月23日）
「心理臨床センター紹介」掲載（同志社大学心理学部父母会会報，12月13日）
「マインドフルネス・脱ダイエットプログラム」広告掲載（京都リビング，１月18日）
腰痛に対するACTプログラム「腰とも」広告掲載（京都リビング，２月15日）

10．心理臨床センター委員会

開催なし

11．心理臨床センター運営委員会

第１回
日　時　2013年４月17日（水）
13：00～14：45
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男（副センター長），石川信一，武藤崇，興津真理子，佐藤豪（センター長），河越隼人，菊田和代，柳澤政宏（心理学部・心理学研究科事務室事務長，以下事務長と記載）

第２回
日　時　2013年５月８日（水）
13：00～14：15
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男（副センター長），石川信一，武藤崇，興津真理子，河越隼人，菊田和代，柳澤政宏（事務長）

第３回
日　時　2013年５月22日（水）
13：00～14：45
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男（副センター長），石川信一，武藤崇，興津真理子，佐藤豪（センター長），河越隼人，菊田和代，柳澤政宏（事務長）

第４回
日　時　2013年６月５日（水）
13：00～14：45
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男（副センター長），石川信一，武藤崇，興津真理子，佐藤豪（センター長），河越隼人，菊田和代，柳澤政宏（事務長）

第５回
日　時　2013年６月19日（水）
13：00～14：45
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男(副センター長)，石川信一，武藤崇，興津真理子，佐藤豪(センター長)，河越隼人，菊田和代，柳澤政宏(事務長)

第６回
日　時　2013年７月10日（水）
13：00～14：45
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男(副センター長)，石川信一，武藤崇，興津真理子，佐藤豪(センター長)，河越隼人，菊田和代，柳澤政宏(事務長)

第７回
日　時　2013年９月25日（水）
13：00～14：45
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男(副センター長)，武藤崇，興津真理子，佐藤豪(センター長)，杉若弘子，河越隼人，菊田和代，柳澤政宏(事務長)

第８回
日　時　2013年10月23日（水）
13：00～14：15
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男(副センター長)，石川信一，武藤崇，興津真理子，佐藤豪(センター長)，杉若弘子，河越隼人，菊田和代，柳澤政宏(事務長)

第９回
日　時　2013年11月６日（水）
14：30～14：50
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男(副センター長)，石川信一，興津真理子，杉若弘子，河越隼人，菊田和代，柳澤政宏(事務長)

第10回
日　時　2013年12月４日（水）
13：00～14：45
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男(副センター長)，石川信一，武藤崇，興津真理子，佐藤豪(センター長)，杉若弘子，河越隼人，菊田和代，柳澤政宏(事務長)

第11回
日　時　2013年12月18日（水）
14：00～14：45
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男(副センター長)，石川信一，武藤崇，興津真理子，佐藤豪(センター長)，杉若弘子，河越隼人，菊田和代，柳澤政宏(事務長)

第12回
日　時　2014年１月８日（水）
13：00～14：45
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男(副センター長)，石川信一，武藤崇，興津真理子，佐藤豪(センター長)，河越隼人，菊田和代，柳澤政宏(事務長)

第13回
日　時　2014年１月22日（水）
13：00～14：45
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男(副センター長)，石川信一，武藤崇，興津真理子，佐藤豪(センター長)，杉若弘子，河越隼人，菊田和代，柳澤政宏(事務長)

第14回
日　時　2014年３月12日（水）
13：00～14：45
場　所　継志館　心理臨床センター研修室
出席者　早樫一男(副センター長)，石川信一，武藤崇，興津真理子，佐藤豪(センター長)，杉若弘子，河越隼人，菊田和代，柳澤政宏(事務長)

12．研究活動

刊行物（著書・論文等）

馬場天信・興津真理子・中西美和　アレキシサイミア傾向者の家族システムと家族内感情体験の特徴について― Family System Test を用いた検討―　追手門学院大学心理学部紀要，**8**，53-65.

早樫一男　家族造形法を使った事例検討会　中央法規出版　ケアマネジャー2013年５月号 36-43.

早樫一男　日本のジェノグラム（１）　対人援助学マガジン，**14**，111-113.

早樫一男　日本のジェノグラム（２）　対人援助学マガジン，**15**，112-114.

早樫一男　日本のジェノグラム（３）　対人援助学マガジン，**16**，123-125.

早樫一男　児童相談所　日本家族研究・家族療法学会（編）　家族療法テキストブック　金剛出版　pp.198-201.

早樫一男・宮井研治　被虐待体験のある子どもたちとの関係づくり　臨床心理学，**13**，821-825.

早樫一男・興津真理子・堀江幸代・西野真理　家族造形法の深度その13　対人援助学マガジン，**13**，104-106.

石川信一　子どもの不安と抑うつに対する認知行動療法―理論と実践―　金子書房

石川信一　第３章　先手を打つ教師，第11章　情動への対処の学習を支援する　ウェブスター・ストラットン（著）　佐藤正二・佐藤容子（監訳）　認知行動療法を活用した子どもの教室マネジメント―社会性と自尊感情を高めるためのガイドブック―　金剛出版　pp.47-64，pp.237-261.

石川信一・菊田和代・三田村仰　児童の不安障害に対する親子認知行動療法の効果　心理臨床学研究，**31**，364-375.

石川信一　資格は誰のために？　日本発達心理学会ニューズレター，**69**，8-9.

石川信一　否定的な信念（ビリーフ）やスキーマを変える―認知療法の立場から―　児童心理 臨時増刊，**975**，66-71.

石川信一　書評「10代のための人見知りと社交不安のワークブック―人付き合いの自信をつけるための認知行動療法と ACT の技法―」　児童青年精神医学とその近接領域，**54**，207-208.

河越隼人　日本における実証的研究を中心としたマイクロカウンセリング研究の動向と展望　マイクロカウンセリング研究，**9**，13-28.

河越隼人　書評「カウンセラーのための法と臨床―離婚・虐待・非行の問題解決に向けて―」　法と心理

河越隼人・杉若弘子　弁護士を対象としたマイクロカウンセリングによるカウンセリング技法習得の有効性　カウンセリング研究，**45**，209-217.

Kishita, N., Muto, T., Ohtsuki, T., & Barnes-Holmes, D. Measuring the effect of cognitive defusion using the Implicit Relational Assessment Procedure: An experimental analysis with a highly socially anxious sample. *Journal of Contextual Behavioral Science*, **3**，8-15.

北川嘉野・武藤崇　マインドフルネスの促進困難への対応方法とは何か　心理臨床科学，**3**，41-51.

三田村仰　アサーションと文化的自己観，対人恐怖の関連―会話完成テストと質問紙法による相関研究―　心理臨床科学，**3**，3-11.

三田村仰・武藤崇　10年以上にわたる抑うつと不定愁訴を抱えるクライエントへのアクセプタンス＆コミットメント・セラピー（ACT）　心理臨床学研究，**31**，970-978.

水野邦夫・嶋原栄子・田積徹・新美秀和・興津真理子　合宿・自発参加型の構成的グループ・エンカウンターにおける参加者の感情変動が自己および他者の捉え方の変化に及ぼす影響―自他への信頼・不信および個

人・グループ過程の変化について―　心理臨床科学，**3**，27-39.

武藤崇　同盟の作り方　臨床心理学，**13**，779-782.

武藤崇（監修）　伊藤義徳・石川信一・三田村仰（監訳）　ローリー・A・グレコ，スティーブン・C・ヘイズ（編著）　子どもと青少年のためのマインドフルネス＆アクセプタンス　明石書店

武藤崇　アクセプタンス＆コミットメント・セラピー（ACT）―行動分析学の「伝統と革新」の結実―　精神療法，**40**，60-63.

武藤崇　第３世代の認知行動療法：ACT を中心に（下山晴彦・神村栄一（編）　『認知行動療法』）　放送大学教育振興会，pp.197-212.

武藤崇　認知行動療法の技法群（１）―応用行動分析①―（下山晴彦・神村栄一（編）『認知行動療法』）　放送大学教育振興会，pp.105-120.

武藤崇　認知行動療法の技法群（１）―応用行動分析②―（下山晴彦・神村栄一（編）『認知行動療法』）　放送大学教育振興会，pp.121-136.

武藤崇・菊田和代　第一章「徹底的行動主義と基本的な行動分析の諸原理」　関係フレーム理論（RFT）をまなぶ―言語行動・ACT 入門―（ニコラス・トールネケ著　Learning RFT: An Introduction to Relational Frame Theory and Its Clinical Application. 2009）

武藤崇・三田村仰・坂野朝子　慢性痛へのアクセプタンス＆コミットメント・セラピー（ACT）　保健の科学，**56**，92-95.

妙木浩之・武藤崇（編）　対人援助職の必須知識・関係づくりの方法を知る　臨床心理学第13巻６号

中川明仁・佐藤豪　交流分析理論から見た完全主義者の他者および自己への態度の検討　行動科学，**52**，87-95.

大屋藍子・武藤崇　２型糖尿病を有する高度肥満者の行動的 QOL の拡大―アクセプタンス＆コミットメント・セラピー（ACT）による援助―　対人援助学研究，**2**，12-21.

坂野雄二・岡島義（監訳）　石川信一・金井嘉宏・松岡紘史（訳）　ウィリアム・T・オドナヒュー，デボラ・A・ヘンダーソン，スティーブン・C・ヘイズ，ジェーン・E・フィッシャー（編）　認知行動療法という革命―創始者が語る歴史―　日本評論社

坂野雄二（監訳）　石川信一・岡島義・金井嘉宏・笹川智子（訳）　デビット・A・クラーク＆アーロン・T・ベック（著）　不安に悩まないためのワークブック―認知行動療法による解決法―　金剛出版

佐藤寛・三田村仰・高岡しの・金谷尚佳・佐藤美幸　うつ病リスクの高い大学生を対象とした集団認知行動療法―ターゲット予防プログラムの予備的研究―　認知療法研究，**7**，84-93.

Sato, S., Ishikawa, S., Togasaki, Y. Ogata A., & Sato, Y. Long-term effects of a universal prevention program for depression in children: A 3-year follow-up study. *Child and Adolescent Mental Health*, **18**, 103-108.

髙垣耕企・岡島義・国里愛彦・中島俊・金井嘉宏・石川信一・坂野雄二　Behavioral Activation for Depression Scale（BADS）日本語版の作成　精神科診断学，**6**，76-85.

田代紘之・興津真理子　怒り表出・抑制に対する自己愛の影響　心理臨床科学，**3**，53-57.

山本淳一（監修）　武藤崇・熊野宏昭（監訳）　関係フレーム理論（RFT）をまなぶ―言語行動理論・ACT 入門―　星和書店

学会活動

青山謙二郎・武藤崇　ラットの砂糖渇望の incubation は，２日に１日の割合で砂糖

を剥奪した場合にも生じるか？（日本行動分析学会第31回年次大会，岐阜大学，ポスター発表，７月27日）

Inoue, N., Umezawa, Y., & Muto, T. The effect of two coping strategies on discomfort. (ACBS Annual World Conference 11, Sydney, Australia, ポスター発表，７月10日）

Ishikawa, S. Cognitive behavioral therapy for Japanese children and adolescents with anxiety disorders: Transportability of evidence-based psychotherapies to Asia. (World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies (7th)，口頭発表，７月25日）

Ishikawa, S., Okajima, I., Sasagawa, S., Sato, H., Otsui, K., & Essau, C. Anxiety disorder symptoms between adolescents and parents: A cross-cultural comparison in UK and Japan. (The 4th Asian Cognitive Behavior Therapy (CBT) Conference, ポスター発表，８月23日）

石川信一　子どもの不安への認知行動療法への適用（第39回日本行動療法学会大会，シンポジスト，８月24日）

石川信一　学校でできる認知行動療法：抑うつ予防プログラムの実際（日本心理学会第77回大会，チュートリアルワークショップ講師，９月19日）

Matsubara, K., Takahashi, T., Ishikawa, S., & Sato, S. Mediators of cognitive behavioral prevention program for children in depression. (The 4th Asian Cognitive Behavior Therapy (CBT) Conference, ポスター発表，８月23日）

三田村仰・武藤崇　パニック障害，社交不安により引きこもっていた青年に対するアクセプタンス＆コミットメント・セラピー（ACT）（第13回日本認知療法学会，ケーススタディ，８月24日）

三田村仰　包括的に距離をとる―言葉を（再）利用するために―（第39回日本行動療法学会，自主企画シンポジウム５　新世代CBTの論点―『距離をおく』ということ―，８月25日）

水野邦夫・嶋原栄子・田積徹・興津真理子　グループ体験における感情変動が自他イメージに及ぼす影響（２）（日本心理学会第77回大会，北海道医療大学，ポスター発表，９月19日）

武藤崇　認知／行動療法セラピストのアカウンタビリティをいかに向上させるか（日本行動療法学会第39回大会，シンポジウム，８月24日）

武藤崇　「体験の回避」と診断横断アプローチとしてのACT（第13回日本認知療法学会，シンポジウム，８月24日）

武藤崇・菊田和代・三田村仰・大屋藍子　むちゃ食い障害に対するアクセプタンス＆コミットメント・セラピー（ACT）―事例研究―（日本行動分析学会第31回年次大会，ポスター発表，７月27日）

武藤崇　なぜ統合・折衷に“見える”のか―アクセプタンス＆コミットメント・セラピー（ACT）の実際―（第４回関西折衷的心理療法研究会，事例発表，３月23日）

中川明仁・木村穣・吉内佐和子・宮内拓史・松嶋典子・馬場天信・佐藤豪　減量時におけるフォーミュラ食使用者と非使用者の心理特性の比較検討（日本肥満治療学会学術集会第31回大会，東京都学術総合センター，６月29, 30日）

中川明仁・佐藤豪　自己志向的完全主義，競争的達成動機および独断性との関連（日本心理学会第77回大会，北海道医療大学，９月19, 20, 21日）

Ogata, A., Togasaki, Y., Ishikawa, S., Sato, H., Sato, Y., & Sato, S. Effectiveness of a school-based depression prevention program for Japanese adolescents. (The 4th Asian Cognitive Behavior

Therapy（CBT）Conference，ポスター発表，８月23日）

興津真理子　実践から考える臨床心理行為―臨床心理士の共通基盤をもとめて（日本心理臨床学会第32回大会，自主シンポジウム，８月26日）

興津真理子・早樫一男　家族造形法を用いた事例検討会の効果に関する研究（日本家族心理学会第30回大会，国立オリンピック記念青少年総合センター，ポスター発表，９月１日）

興津真理子・仲本夏子　Three Good Things 課題が精神的健康に及ぼす影響（日本健康心理学会第26回大会，北星学園大学，ポスター発表，９月５日）

Oya, A., Murata, Y., Ouchi, S., & Muto, T. Characteristics of behavioral variability in students with high cognitive fusion.（Poster presented a 11th ACBS Annual World Conference, July, Sydney, Australia.）

大屋藍子・武藤崇　先生，叱らないで！―生活習慣の改善を促すための援助の必要条件とは何か？―（対人援助学会第５回年次大会，立命館大学，口頭発表，11月10日）

齋藤瞳・佐藤豪　Effects of Homework Intervention based on Transactional Analysis and Cognitive Behavioral Therapy.（交流分析・認知行動療法に基づくホームワーク介入の効果）（日本交流分析学会第38回学術大会，大阪国際センター，８月17, 18日）

Sakano, A., & Muto, T. Is behavior activation based on value better than simple behavior activation?: Effect of value clarification on daily goal behavior and mental health.（Annual World Conference 11 of Association for Contextual Behavioral Science, Sydney，ポスター発表，７月10日）

坂野朝子・武藤崇　「価値の明確化」手続きが大学生における目標行動の達成に及ぼす影響（日本心理学会第77回大会，北海道医療大学，ポスター発表，９月19日）

Sasagawa, S., Ishikawa, S., Okajima, I., Sato, H., Otsui, K., & Essau, C. A. Cross-cultural comparison of Taijin Kyofusho symptoms in Japan and England: A two-generation study.（The 4th Asian Cognitive Behavior Therapy（CBT）Conference，ポスター発表，８月23日）

佐藤寛・井上美沙・高岡しの・三田村仰・佐藤美幸　CES-D によるうつ病の判別精度―ROC 分析と SSLR を用いたカットオフスコアの再検討―（第10回日本うつ病学会総会，於北九州国際会議場，ポスター発表，７月19日）

佐藤寛・三田村仰・高岡しの・井上美沙・佐藤美幸　うつ病リスクの高い大学生のための集団認知行動療法―プログラム参加者の時系列的変化に関する予備的分析―（第13回日本認知療法学会，帝京平成大学池袋キャンパス，ポスター発表，８月24日）

佐藤豪　喫煙者と非喫煙者の心理・行動特徴の検討―生活習慣，アレキシソミア，アレキシサイミアについて―（日本健康心理学会第26回大会，北星学園大学，９月５，６，７日）

Takahashi, T., Ishikawa, S., & Sato, S. Effectiveness of social problem solving training for junior high school students.（The 4th Asian Cognitive Behavior Therapy（CBT）Conference，ポスター発表，８月23日）

Umezawa, Y., Muto, T., Shigemoto, Y., Inoue, M.. Does an opportunity to choose enhance the effect of defusion exercise on pain?（Association for Contextual Behavioral Science（ACBS）Annual World Conference 11, Sydney，ポスター発表，７月10日）

研究会活動

早樫一男・古川秀明・興津真理子　現任者のための家族援助研修会　京都家族造形研究会（５月10日，６月14日，７月12日，８月９日，９月13日，10月11日，11月８日，12月20日）

石川信一・佐藤寛・高橋史　思春期のパニック障害―アセスメントから治療まで―（第11回児童青年認知行動療法研究会，９月22日）

武藤崇　3rd Annual meeting of ACT Japan（Japan Chapter of Association for Contextual Behavioral Science，２月15日，16日，同志社大学）

坂野朝子・武藤崇　「価値の明確化」手続きが大学生における目標行動の達成に及ぼす影響（ACT Japan 2013年度年次ミーティング，同志社大学，ポスター発表，２月15日）

Umezawa, Y., Muto, T., Shigemoto, Y., Inoue, M. Does an opportunity to choose enhance the effect of defusion exercise on pain?（ACT Japan，2013年度年次ミーティング，ポスター発表，２月15日）

13. 社会貢献

講演・公開講座

早樫一男　ジェノグラムの書き方（平成25年度児童相談所児童福祉司指導者基礎研修講師，子どもの虹情報研修センター，６月25日）

早樫一男　平成25年度５年目職員研修講師（京都府職員研修・研究支援センター，11月６日）

早樫一男　保育士研修会（虐待・保護者対応）講師（滋賀県保育協議会，11月７日）

石川信一　子どもの不安や抑うつに対する理解と支援―認知行動療法による対応を中心に―（公益社団法人神奈川学習障害教育研究会夏のセミナー2013，講師，８月８日）

石川信一　解決志向に基づく学校カウンセリング―認知行動療法の立場から―（関西福祉大学主催中学・高校教員のためのエンパワメント講座，講師，８月19日）

石川信一　社会的スキル研修会（城陽市立東城陽中学校校内研修会，講師，８月20日）

石川信一　SST の基礎（京都市立室町小学校，京都市立烏丸中学校，和敬学園合同研修会，講師，８月21日）

石川信一　WISC 研修会（京都市立西総合支援学校研修会講師，８月27日）

石川信一　認知行動療法の基礎について（平成25年京都府中堅心理司研修会，講師，９月13日）

石川信一　うつや不安を軽減する，子どものための認知行動療法―発達障害のある子どものより良い適応のために―（NCNP 市民公開講座　発達障害の子どもたちのために社会ができること―最新研究からみえてきたもの―，講師，11月４日）

石川信一　子どもを褒めるということ―その背景にある意義と重要性―（守山市発達支援センター発達支援課主催　第３回特別支援教育会，講師，11月８日）

石川信一　子どもの認知行動療法の基礎，子どもの不安に対する認知行動療法（日本心理研修センター秋季研修会，講師，11月24日）

石川信一　子どもの社会性をはぐくむ―豊かな人間関係を築き，自分らしさを発揮するために―（同志社小学校明心会　2013年度第３回教育教養セミナー，講師，12月５日）

石川信一　いっちゃが教室　PRP プログラム（平成25年京都府中堅心理司研修会，講師，12月６日）

石川信一　健やかな発達を支える行動支援（寝屋川市保健福祉部こども室家庭児童相談室講演会，講師，12月26日）

河越隼人　日本マイクロカウンセリング学会平成25年度研修会・基礎トレーニング（講師，３月８日）

菊田和代　基礎から学べる認知行動療法―産業臨床場面を主眼として―（大阪府臨床心理士会産業部会第８回研修会，話題提供，

ドーンセンター，２月23日）

三田村仰　認知行動療法の最前線―アクセプタンス＆コミットメント・セラピーとは―，地域住民の皆さんに関わる支援者のための自殺対策ステップアップ研修（亀岡市健康福祉部地域福祉課主催研修会，京都府亀岡市役所，８月５日）

三田村仰　うつと一緒に暮らす―認知行動療法の新しい方向性―（京都府丹後保健所・京都府立医科大学附属北部医療センター主催研修会，野田川わーくぱる，９月22日）

三田村仰　行動理論（日本産業カウンセラー協会【シニアコース講座】，産業カウンセラー協会関西支部主催研修会，講師，日本産業カウンセラー協会関西支部研修センター，10月20日）

三田村仰　認知行動療法の視点から『豊かな人生』を送るための提案，こころの健康講座（亀岡市地域福祉課主催，講師，亀岡市役所市民ホール，12月21日）

三田村仰　これからのメンタルヘルスの視点―ACT による人生のマネジメント―（京都府職員研修・研究支援センター主催研修会，講師，キャンパスプラザ京都，１月15日）

三田村仰　日常臨床で使える ACT の視点（第22回京都行動療法研修会，京都行動療法を学ぶ会／グラクソスミスクライン（株）主催，講師，ハートンホテル京都，２月１日）

三田村仰　認知行動療法（2013年度産業心理臨床家養成プログラム主京都文教大学　産業メンタルヘルス研究所主催，キャンパスプラザ京都，２月22日）

武藤崇　テクニックから始めない認知行動療法：マインドフルネスとアクセプタンス（第86回日本産業衛生学会総会産業心理技術研究会，講師，５月15日）

武藤崇　事例で考えるアクセプタンス＆コミットメント・セラピー（ACT）―中級者以上向け―（日本行動療法学会第37回研修会，講師，８月23日）

武藤崇　アクセプタンス＆コミットメント・セラピー（ACT）が効果を生み出すための『条件』とは何か（滋賀医科大学学際的痛み治療センター研修会，講師，10月16日）

武藤崇　リワークからリライフへ―産業心理臨床で ACT をどのように活かすのか―（平成25年度日本臨床心理士会定例研修会・第８回産業心理臨床専門研修会（分科会５），講師，10月26日）

武藤崇　『やめられない，とまらない』をどうしたら『やめられる』のか『むちゃ食い障害』に対する行動分析学的アプローチ（日本心理学会公開シンポジウム，話題提供者，12月８日）

武藤崇　三項随伴性とは何か―あるのかないのか，それが問題だ―（3rd Annual meeting of ACT Japan (Japan Chapter of Association for Contextual Behavioral Science)，研修会，講師，２月16日）

佐藤豪　医師と患者のコミュニケーション（京都府医師会，４月６日）

島田香・三田村仰　教員のアセスメント能力を高める（平成25年度秋期　教員免許状更新講習，講師，京都文教大学，12月８日）

田中健吾・坊隆史・高原龍二・菊田和代　事業場外資源の連携と復職支援（関西社会人大学院連合　インテリジェントアレー専門セミナー「事業場内メンタルヘルス推進担当者養成講座」，講師，１月24,31日，２月７，14日）

その他

武藤崇　ACT 実施のためのワークショップ（名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学講座，講師，10月20日，12月22日，１月25日，３月２日）

佐藤豪　同志社心理臨床家懇話会開催（５月25日，７月13日，10月19日）

14．2013年度構成員

センター長
　佐藤　　豪（心理学部　教授）
副センター長
　早樫　一男（心理学部　教授）
指導相談員
　杉若　弘子（心理学部　教授，在外研究
　　2012年３月～2013年８月）
　武藤　　崇（心理学部　教授）
　興津真理子（心理学部　准教授）
　石川　信一（心理学部　准教授）
特任指導員
　河越　隼人（心理学部　助手）
相談員
　菊田　和代（心理臨床センター）
　三田村　仰（心理臨床センター）
相談研修員
　大屋　藍子（心理学研究科博士課程後期課程）
　坂野　朝子（心理学研究科博士課程後期課程）
　茂本　由紀（心理学研究科博士課程後期課程）
　板垣　　寛（心理学研究科博士課程前期課程）
　上西　祐輝（心理学研究科博士課程前期課程）
　北川　嘉野（心理学研究科博士課程前期課程）
　田代　紘之（心理学研究科博士課程前期課程）
　梅村　友輔（心理学研究科博士課程前期課程）
　堀江　幸代（心理学研究科博士課程前期課程）
　井上　　和（心理学研究科博士課程前期課程）
　桐山　佳奈（心理学研究科博士課程前期課程）
　中　　優太（心理学研究科博士課程前期課程）
　中野　洋平（心理学研究科博士課程前期課程）
　梅澤友香里（心理学研究科博士課程前期課程）

以上